

第2回学校運営協議会記録

日時 令和6年10月30日(水) 10:00～12:00

場所 札幌聾学校 多目的室

【委員】

氏 名	役 職	出欠状況
渥 美 建 治	北区北地区民生委員・児童委員協議会副会長	出席
小 泉 詔 信	北24条商店街振興組合理事長	欠席
杉 本 五 郎	北海道札幌聾学校同窓会会長	出席
只 石 亜由美	北海道札幌聾学校 PTA 会長	出席
渋谷 雄 幸	公益社団法人札幌聴覚障害者協会理事長	出席
高 野 賢 一	札幌医科大学医学部教授	欠席
船 山 大 介	放課後デイサービスふくろう管理者	出席
佐 藤 信太郎	北海道警察札幌方面北警察署生活安全課長	出席
佐 賀 聡	北海道札幌北高等学校長	出席
四 木 定 宏	北海道札幌聾学校	出席

【各委員からの話題提供】

- ・知識と経験を通して、大人になってから自分は何になりたいのかというイメージを広げること。そのベースを幼小中と各学部で段階的に形成していくことが良いと思った。
- ・札幌聴覚障害者協会の行事に可能な範囲で、保護者と子どもたちに参加して欲しい。
- ・6月に学校周辺の清掃活動を、児童と町内会で一緒に行った。コミュニケーションをとれたという意見はたくさんあった。学校の子どもたちとコミュニケーションをとるのを町内の人も楽しみにしている。
- ・子どもが外で声をかけられたときにどうするか。学校に不審者が来た時の対応についての防犯訓練や警察の仕事を知ってもらう説明など、要望があれば警察署でも協力したい。
- ・コロナを経験している世代が高校生になり、人との関わりが減っている。子どもたちの成長につながる機会を作っていきたいと思う。
- ・保護者の立場として、学力の向上だけではなく、社会のルールを学ぶことが一番大きな学校の存在意義だと思う。早い段階から仕事や将来について、考える機会を作してほしい。先日PTA主催のふれあいフェスタがあった。その中で、保護者として先生と子どものかかわり、先生同士のかかわりを直接見られたのが良かった。先生同士の仲が良いところを見ると、子どもたちを安心して通わせたいと思える。
- ・子どもたちの能力を生かせる教育、子どもたちのニーズに合わせた教育をこれからも実践してほしい。

【熟議：学校教育目標に対する具体的な取組や社会に開かれた学校づくり】

「早期のキャリア教育」

幼小中一貫したキャリア教育の実践。外部講師として地域の人的資源を活用して幅を広げていけば良い。地域の人と何かすることによって社会性やコミュニケーション能力も付いていく。

「成人ろう者とのかかわり」

まずは、成人ろう者の方に学校に来ていただいて、子どもたちが今どんな状況でどんな学びをしているのかを見てもらう機会を設ける。その後、教員と成人ろう者の対話の場や、PTA と対話する機会を設けたり、子どもたちと成人ろう者との交流の場を作ったりして、成人ろう者の現実にもっと目を向けていく。成人ろう者は子どもたちにとって人生のロールモデルとなっていく。